

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (21): 5-14, 1994.

## 香川県香東川と財田川における淡水魚の分布

大高裕幸・<sup>1</sup>須永哲雄・<sup>2</sup>河内直人・<sup>3</sup>倉沢 均・<sup>4</sup>吉田時子・<sup>5</sup>森 一生  
 〒761-04 高松市三谷町三溪小学校・<sup>1</sup>〒760 高松市幸町香川大学教育学部生物学教室・  
<sup>2</sup>〒769-23 大川郡長尾町長尾小学校・<sup>3</sup>〒760 高松市錦町二番丁小学校・  
<sup>4</sup>〒761 高松市香西南町香西小学校・<sup>5</sup>〒761-46 小豆郡土庄町豊島小学校

Freshwater fish fauna of Rivers Kotoo and Saita, Kagawa Prefecture, Japan

**Hiroyuki Ootaka**, *Sankei Primary School, Mitanicho, Takamatsu 761-04, Japan*

**Tetsuo Sunaga**, *Biological Laboratory, Faculty of Education, Kagawa University, Takamatsu 760, Japan*

**Naoto Kawachi**, *Nagao Primary School, Nagaocho, Ookayama 769-23, Japan*

**Hitoshi Kurasawa**, *Nibancho Primary School, Nishikimachi, Takamatsu 760, Japan*

**Tokiko Yoshida**, *Kouzai Primary School, Kouzaiminamimachi, Takamatsu 761, Japan*

**Itsusei Mori**, *Teshima Primary School, Tonoshyocho, Shyozugun 761-46, Japan*

### はじめに

香川県を流れる2級河川である香東川と財田川における淡水魚類相は、香東川では須永ほか(1972, 1985, 1989), 川田ほか(1975), 植松ほか(1975, 1979)があり、財田川では植松(1983), 植松ほか(1972, 1975, 1979, 1984), 川田ほか(1975), 須永ほか(1984, 1989)によって報告された。1974年5月30日には徳島県吉野川の香川用水への導水が開始され、これらの報告は、両河川における導水前後の魚類相を比較するものとなっている。しかし、導水後18年を経過した両河川における魚類相の変化についての調査はいまだおこなわれていない。そこで、1990年代におけるこれら両河川の魚類相について今回報告する。

本論に先立ち、採集や資料整理に協力された当時香川大学生物学教室の山本展之氏、長沢克巳氏ならびに本稿の校閲とともにご助言いただいた香川大学教育学部生物学教室の金子之史教授に感謝の意を表す。また、今回の調査は、

第4回自然環境保全基礎調査(河川調査)の一環としておこなわれたものである。本調査の実行にあたって、種々の御援助をいただいた香川大学生物学教室の末広喜代一教授に深く感謝する。

### 調査方法

財田川は、1992年8月3日~5日にかけて、香東川は、8月10日~11日にかけて淡水魚類相の調査をおこなった。魚類の採集には、投網2統(1節14mmと18mm)および手製玉網4個(1節4mm)を使用した。なお、採集地点の状態によって投網や玉網だけを使用した場合があった。採集した資料は直ちにホルマリン10%溶液で固定し、後日、種ごとに体長・体重を測定した。学名・和名は川那部ほか(1989)にしたがった。

香東川および財田川における採集地点の位置および河川勾配は、図1~2に示した。また、香東川と財田川の両河川について採集地点の状態は以下のとおりである。

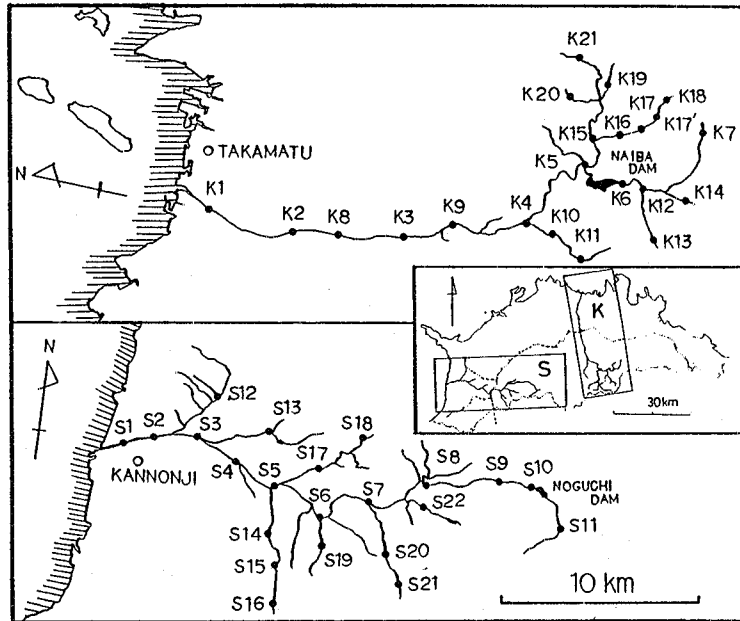


図1. 香川県香東川(K)と財田川(S)における採集調査地点. 図中の数字は採集調査地点を示す.

1) 香東川

香東川は、流程約36km(本流約32km),讃岐山脈中央部から源を発し、讃岐平野の中心部を高松市に流下し瀬戸内海に注いでいる流域面積約119.6km<sup>2</sup>の2級河川である(香川県, 1991)。本調査では、本流に9地点(K1, K2, K8, K3, K9, K4, K5, K15, K21), 支流堂ヶ平川に1地点(K19), 支流西谷川に2地点(K10, K11), 支流貝股川に1地点(K13), 支流内場川に3地点(K6, K12, K14), 支流小出川に1地点(K7), 支流椈川に4地点(K16, K17, K17, K18), 支流小養川に1地点(K20), 合計22地点を設定した。

K1 御殿 河口から約1.5km上流に位置し、平野流で河川形態はBb-Bc型の様相を示し、流れ幅約10m, 流心付近の水深は約60cm, 底質は礫と砂泥である。兩岸コンクリート護岸が完備されている。

K2 成合橋 河原には雑草が茂り、兩岸はコンクリート護岸が完備されている。橋直下の河床はコンクリート張りされている。川幅約

220 m, 流れ幅約10m, 流れは浅く水深20~30 cm, 底質は丸石と粗礫である。

K8 川部橋 流れは細く、川幅約160 m, 流れ幅約10m, 流心付近でも水深約20~30cm, 底質は砂泥と粗礫である。河原は雑草が茂る。

K3 大地蔵 地点の直上流に灌漑用ダムがあり、川幅約130 m, 流れ幅はダム下流では約3~4 mと細い。底質は小石と粗礫, 水深30~40cm。河原には雑草が茂る。

K9 岩崎橋 河床は岩盤が露出し、所々に深いたまりがある。川幅約70m, 流れ幅約10m, 水深約30~180cm。底質は、大石と粗礫である。

K4 来栖 上流側に灌漑用ダム(落差約1.5 m)があり、ほぼ川幅(約50m)いっぱいに水がたまり、流れ幅約40m, 水深約1 m。ダムの下流側は流れ幅約3 m, 水深約20cm。底質は、砂泥と粗礫である。

K5 内場川合流点下 兩岸はコンクリート護岸。右岸の河原には雑草が繁茂。川幅約50m, 流れ幅約12m, 流心付近の水深約50cm。底質は粗礫と砂。

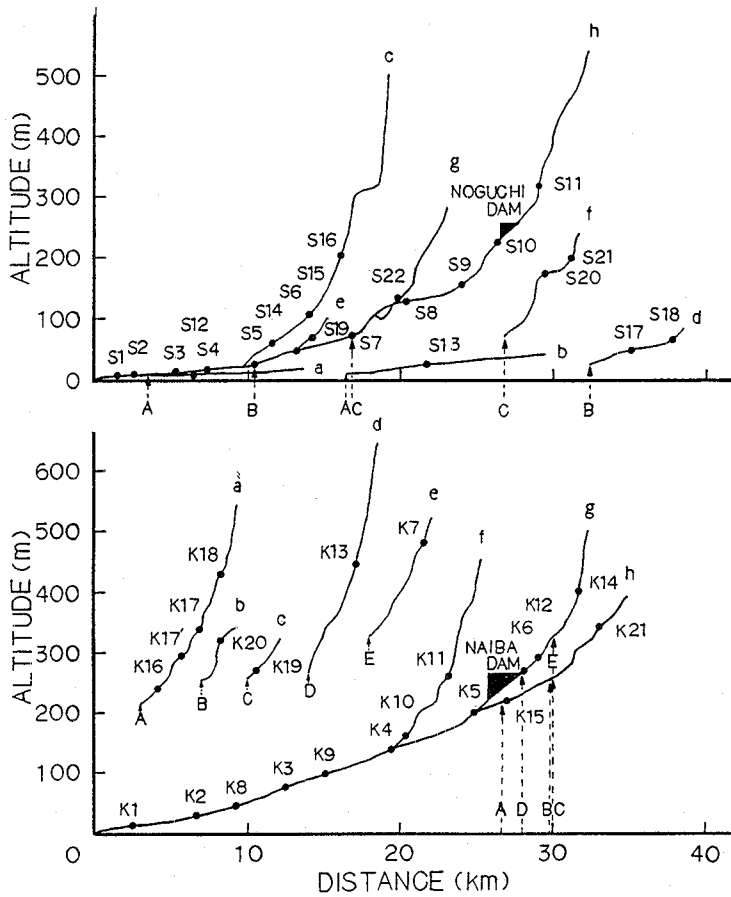


図2. 香川県香東川と財田川の河川の勾配図。図中のA～Eは支流の合流地点を示す。図中のa～hは支流を示す。

- 香東川支流 a：栴川, b：小藁川, c：堂ヶ川, d：貝股川, e：小出川,  
f：西谷川, g：内場川, h：香東川本流を示す。
- 財田川支流 a：竿川, b：宮川, c：河内川, d：神田川, e：本篠川,  
f：谷道川, g：帰来川, h：本流財田川を示す。

K15 落合新橋兩岸はコンクリートで護岸されている。河床はAa-Bb型の様相を示し、川幅約15m, 流れ幅8m, 流心の水深は約80cm, 底質は小石と粗礫。

K21 津柳 河床はAa型, 落ち込み淵が続く。兩岸は自然岸で雑草がよく茂り、水面を覆っている。川幅約8m, 流れ幅約0.5~1.5m, 水深は約40cm。底質は頭大の角礫と粗い砂である。

K19 下所東(支流堂ヶ平川) 兩岸には岩盤が露出している。河床は岩盤が露出し、底質は頭大の角礫と小石。流れ幅約3.5m, 水深20~80cm。

K10 昇龍橋(支流西谷川) 右岸は石築岸, 左岸はコンクリート護岸になっており、約100m上流側に落差2mの砂防ダムが存在する。川幅約10m, 流れ幅2~4m, 底質は岩盤に大礫である。水深20~40cm。

K11 桜橋(支流西谷川) 兩岸とも自然岸で、河川形態はAa型を示し、底質は岩盤が露出している。川幅12m, 流れ幅2m, 水深10~20cm。

K13 浅木原(支流貝股川) 兩岸とも自然岸で左岸側が道路になっている。下流に落差約8mの砂防ダムがある。底質は大礫(角礫)と

岩である。川幅15～20m, 流れ幅2m, 水深15～30cm。

K6 内場ダムバックウォーター（支流内場川） 右岸はコンクリート護岸がなされ左岸は岩盤が露出している。内場ダムへの流入部分で河川形態はBb型を示している。底質は礫底である。川幅約50m, 流れ幅3～6m, 水深20～100cm。

K12 貝股橋（支流内場川） 右岸に上西公民館, 左岸沿いに道路があり, 岩盤が露出している。河川形態はAa-Bb移行型である。底質は丸石と角石である。川幅60m, 流れ幅8m, 水深30～50cm。

K14 甲神（支流内場川） 右岸は崖, 左岸は整地されたキャンプ場である。河川形態はAa型を示している。上流に落差3mの砂防ダムがある。底質は岩盤が露出しており岩盤上に岩が存在する。川幅10m, 流れ幅3～4m, 水深30cm。

K7 別子合流点（支流小出川） 兩岸とも自然岸で, 左岸は杉林, 右岸が道路になっている。香東川支流内場川と小出川の合流点である。底質は巨礫と岩である。河川形態はAa型を示し, 川幅15m, 流れ幅4m, 水深30cm。

K16 讃岐温泉入口（支流椋川） 兩岸とも護岸工事が施されている。河川形態はAa型で階段状の落ち込み淵が連続している。底質は岩盤が露出しており, 巨礫と頭大の礫で浮き石である。川幅16m, 流れ幅2～5m。

K17' 片手石橋（支流椋川） 兩岸とも岩盤に一部コンクリート護岸が施されている。河川形態はAa型を示し, ツルヨシの群生が見られた。底質は岩盤が露出し, 岩盤の間に大礫。川幅20m, 流れ幅2～3m, 水深30～80cm。

K17 土俵（支流椋川） 兩岸とも自然岸で, 周囲は竹林である。養魚場の下流の地点で, 下流側に砂防ダムがある。底質は頭大・拳大の角礫。川幅5m, 流れ幅5m, 水深30cm。

K18 木綿織（支流椋川） 林道野田線に入って100mの地点。兩岸は自然岸である。河川形態はAa型で落ち込み淵が連続している。底質は巨礫と小石である。川幅3～4m, 流れ幅1.5

m, 水深40～50cm。

K20 虹の滝上（支流小菘川） 兩岸は護岸工事が施され, 周囲は水田。底質は岩盤が露出しており, 頭大の礫と粗砂, 沈み石である。川幅5m, 流れ幅1～3.5m。

## 2) 財田川

財田川は, 流程約32.4km, 讃岐山脈大川山(1042.9m)に源を発し, 山間部を西流したのち三豊平野を北流して観音寺市に注ぐ流域面積約140.5km<sup>2</sup>の2級河川である(香川県, 1991)。本調査では, 本流に11地点(S1～S11), 支流宮川に1地点(S13), 支流河内川に3地点(S14～S16), 支流神田川に2地点(S17, S18), 支流本篠川に1地点(S19), 支流谷道川に2地点(S20, S21), 支流帰来川に1地点(S22), 合計22地点を設定した。

S1 染川橋 兩岸は道路で護岸工事が完備されており, 底質は礫, 大礫, 砂泥である。川幅約100m, 流れ幅10m, 水深30cm。

S2 稲積橋 兩岸とも道路で護岸工事が完備されており, 堤防には雑草が繁茂している。底質は砂礫。川幅約110m, 流れ幅約20m, 水深1m。

S3 本山寺橋 兩岸とも護岸工事が完備されており, 河原はツルヨシ等の雑草が繁茂している。底質は小石と砂である。川幅約200m, 流れ幅約10m, 水深40cm。

S4 江藤橋 兩岸とも護岸工事がなされており, 上流に落差1mの砂防ダムがある。ダムの下流側約5mは河床をコンクリート張りがなされている。底質は大礫と砂である。川幅約130m, 流れ幅40m, 水深80cm。

S5 樋監橋 左岸は雑草が繁茂し竹林, 右岸はコンクリート護岸が施されている。底質は砂礫大礫が混じっており, 沈み石。川幅約49m, 流れ幅約22m。

S6 財田中橋 片岸護岸工事がなされており, 河床にはテトラポットが積み上げられている。底質は頭大と拳大の丸石。川幅約57m, 流れ幅20～25m, 水深60cm。

S7 財田橋 兩岸コンクリート護岸がなされ左岸は整地され公園になっている。落差1m

のコンクリート製の砂防ダムがあり、下流側には十字のコンクリートブロックが敷き詰められている。河川形態は平瀬が続くBb型である。底質は頭大の丸石と小石、浮き石。川幅約60m, 流れ幅約40m, 水深30~80cm。

S 8 山脇橋 両岸コンクリート護岸がなされており、河床は十字のコンクリートブロックが敷き詰められている。底質は頭大や拳大の丸石と小石、浮き石である。川幅25m, 流れ幅1~5 m, 水深30~50cm。

S 9 道德寺橋 両岸は自然岸で、下流側に落差1.2mの砂防ダムがあり、河床は十字のコンクリートブロックが敷き詰められている。河川形態は平瀬が続くBb型である。底質は巨石と小石、粗砂である。川幅43m, 流れ幅1.5~4 m, 水深10~30cm。

S10 野口ダム下 野口ダム下流約100mの地点である。河川形態はAa型で落ち込み淵が続く。河床は岩盤が露出しており底質は巨礫である。石に水垢が沈澱していた。川幅12m, 流れ幅1.5~10m, 水深20~100cm。

S11 塩入橋 塩入橋より上流約100mの地点である。片岸護岸工事が施されている。上流にコンクリート製の砂防ダムが2個存在する。底質は大礫と岩盤、粗い砂礫である。浮き石の表面にはアオミドロがみられた。川幅16m, 流れ幅3~4 m, 水深20~50cm。

S13 三反池下(支流宮川) 両岸ともコンクリート護岸が施されている。河原にはツルヨシ、ミゾソバが群生している。底質は砂泥と礫。川幅約9 m, 流れ幅2 m, 水深15~20cm。

S14 河内小学校裏(支流河内川) 両岸とも自然岸で切り立っている。左岸には水田が広がっている。下流側に落差2mの灌漑用の取水ダムが存在する。底質は巨礫と砂泥、礫は泥をかぶっている。川幅18m, 流れ幅7.5m。

S15 長野(支流河内川) 川岸に養鶏場があり、川岸沿いにツルヨシが群生している。河川形態はAa-Bb型移行帯である。底質は岩盤上に岩と礫。川幅14m, 流れ幅4.4m, 水深20cm。

S16 河内川最上流(支流河内川) 両岸とも自然岸で切り立っている。直下には砂防ダム

が存在する。河川形態はAa型。底質は岩がごろごろしている。川幅9 m, 流れ幅1 m, 水深10 cm。

S17 高橋(支流神田川) 両岸は石築及びコンクリート護岸が施されている。河原にはミゾソバ、ヤナギバキリンソウが群生する。底質は砂と礫。川幅約9 m, 流れ幅3 m, 水深10~20cm。

S18 龍光寺橋(支流神田川) 両岸ともコンクリート護岸が施され、左岸は竹林、右岸は水田が広がっている。川縁にはイヌタデ、イヌビワが密生している。底質は砂泥底である。川幅8.5m, 流れ幅2.7m, 水深10~15cm。

S19 道手橋(支流本篠川) 両岸とも護岸工事が施されている。上流に落差50cmのコンクリート製の砂防ダムが存在する。底質は丸石と粗砂、小石である。川幅7.5m, 流れ幅1~2m, 水深10~60cm。

S20 戸川上(支流谷道川) 河川形態Aa型で、落ち込み淵が続く岩盤が露出している。底質は頭大の角礫と粘土。川幅約6 m, 流れ幅0.5~4 m, 水深10~80cm。

S21 新牛盤橋(支流谷道川) 両岸とも護岸工事が施され、川岸に採石工場がある。河川形態はAa型で落ち込み淵が続く。底質は巨大な角礫と角石、砂である。川幅3~4 m, 流れ幅0.5~1m, 水深30~60cm。

S22 十郷橋(支流帰来川) 両岸とも護岸工事が施され、下流に落差1.5mのコンクリート製の砂防ダムと落差60cmの石築の堤が連続して存在する。堤の下流6mはコンクリートで平坦化されている。堤の下流のたまりはアオミドロが繁茂している。河川形態はBb型で平瀬が続く。底質は頭大の丸石と小石、浮き石。川幅10m, 流れ幅0.5~10m, 水深10~60cm。

### 結果および考察

今回の調査において、香東川から採集された魚類は、ウナギ、ギンブナ、ニゴイ、オイカワ、カワムツ、カマツカ、タモロコ、ヨシノボリ(トウヨシノボリ)、カワヨシノボリ、シマドジョウ、スジシマドジョウ(中型種)、ホトケド

表 1. 香東川と財田川で採集された魚類.

科名	標準和名	学名	香東川	財田川
ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	○	○
キヌワリウオ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	○	○
サケ科	アマゴ	<i>Salmo (Oncorhynchus) masou macrostomus</i>	○	*
コイ科	カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>	○	○
	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>	○	○
	タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus</i>	○	○
	タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	○	○
	ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>	○	○
	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	○	○
	カマツカ	<i>Pseudogobio (Pseudogobio) esocinus esocinus</i>	○	○
	ニゴイ	<i>Hemibarbus labeo barbuis</i>	○	○
	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	+	○
	ギンブナ	<i>Carassius gibelio langsdorfi</i>	○	○
	ヤリタナゴ	<i>Tanaka lanceolata</i>	○	○
	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	○	○
ドジョウ科	スジマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. M	○	○
	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>	○	○
	ホトケドジョウ	<i>Lefua costata echigonia</i>	○	○
ギギ科	ギギ	<i>Pseudobagrus (Peteobagrus) fuividraco</i>	○	○
ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	○	○
メダカ科	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	○	○
ボラ科	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	○	○
	メナダ	<i>Liza haematocheila</i>	○	○
タイワンドジョウ科	カムルチー	<i>Channa argus</i>	○	○
バス科	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides salmoides</i>	+	+
	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	○	○
ハゼ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscura obscura</i>	○	○
	シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. CB	○	○
	トワヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. OR	○	○
	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	○	○
	ワキゴリ (淡水型)	<i>Chaenogobius urotaenia</i>	○	○
	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○

○は採集によって分布が確認された種, +は観察, \*は聞き込みによって分布が確認された種を示す.

表 2. 香東川およびその支流における淡水魚の地点別採集個体数.

河川名	香東川 (本流)																				小囊川		
	K1	K2	K3	K4	K5	K15	K21	K19	K10	K11	K13	K6	K12	K14	K7	K16	K17	K18	K20				
アマガゴ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	7	0	0	0	2	0	0	0	9		
カワムツ	1	1	2	6	89	65	3	47	17	12	0	0	14	0	0	45	17	0	0	9	328		
オイカワ	10	3	16	11	1	5	10	6	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	67		
タカハヤ	0	0	0	0	1	2	10	22	5	1	14	1	5	12	4	2	1	1	4	6	91		
タモロコ	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6		
ムギツク	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
コイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+		
ギンブナ	16	56	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90		
ヤリタナゴ	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
カマツカ	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
ニゴイ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
スジマドジョウ	+	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6		
シマドジョウ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3		
ホトケドジョウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	1	0	7		
ドンコ	0	0	0	1	1	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
カムルチー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
オオクチバス	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+		
ブルーギル	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
カワヨシノボリ	0	0	3	0	6	18	44	10	8	3	11	6	2	0	9	0	13	53	0	25	238		
ウナギ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
アユ	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
トウヨシノボリ	8	0	0	5	4	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	30		
ウキゴリ淡水型	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
個体数合計	41	62	27	40	16	40	149	85	22	73	35	20	17	21	35	12	9	60	73	1	30	43	911

十は、観察によって分布が確認された種を示す。  
Iは、純淡水魚、IIは、通し淡水魚を示す。

表 3. 財田川およびその支流における淡水魚の地点別採集個体数.

河川名	財田川(本流)																	個体 数計				
	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	S11	S13	S14	S15	S16	S17	S18		S19	S20	S21	S22
アマゴ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	*
カワムツ	・	1	・	・	1	5	28	64	17	・	54	・	26	7	24	・	41	3	・	28	299	
オイカワ	・	2	10	63	11	67	39	15	11	・	・	10	8	・	・	10	・	・	・	・	246	
タカハヤ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	
タモロコ	・	・	1	3	1	・	・	・	・	・	・	1	4	・	・	・	・	・	・	・	10	
モツゴ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・	・	1	・	・	・	2	
コイ	・	1	・	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	
ギンブナ	・	4	3	10	13	3	・	・	・	・	・	13	・	・	・	5	1	・	・	・	52	
タイリクバラタナゴ	・	10	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	・	・	・	・	・	・	・	・	12	
カマツカ	・	・	1	3	7	2	3	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	16	
ニゴイ	・	・	3	13	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	16	
I																						
シマドジョウ	・	・	・	・	・	・	2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	
ホトケドジョウ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10	・	2	・	12	
ギギ	・	・	・	・	2	5	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	7	
ナマズ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	・	・	・	・	1	
ドンコ	・	・	・	・	・	1	2	・	・	・	・	8	6	4	・	5	1	3	・	・	30	
メダカ	・	3	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	3	
カワヨシノボリ	・	・	・	・	・	・	4	2	6	・	・	1	・	8	・	・	33	1	・	4	59	
アユ	・	・	・	・	・	2	+	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	
II																						
シマヨシノボリ	・	・	・	5	・	11	7	・	・	・	3	・	・	1	・	・	・	2	・	・	29	
トウヨシノボリ	・	3	・	2	1	・	1	・	・	7	34	3	・	・	2	5	・	2	・	・	60	
マハゼ	2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2	
III																						
ボラ	4	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	4	
メナダ	1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1	
個体数合計	7	24	18	100	36	95	83	85	34	7	92	25	58	12	32	23	18	77	8	2	868	

十は、観察によって分布が確認された種, \*は、聞き込みによって分布が確認された種を示す.

Iは、純淡水魚, IIは、通し淡水魚, IIIは、周縁魚を示す.



ジョウ、カムルチー、ブルーギル、ヤリタナゴ、ウキゴリ（淡水型）、アユ、ドンコ、ムギツク、タカハヤ、アマゴの21種であり、観察により分布を確認されたコイ、オオクチバスの2種を加えると合計23種の淡水魚類の生息が確認された。一方財田川から採集された魚類はボラ、メナダ、マハゼ、コイ、ギンブナ、メダカ、ニゴイ、オイカワ、カワムツ、カマツカ、タモロコ、モツゴ、ヨシノボリ（トウヨシノボリ・シマヨシノボリ）、カワヨシノボリ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、アユ、ドンコ、タカハヤ、タイリクバラタナゴ、ギギ、ナマズの22種であり、観察により分布を確認されたオオクチバス、聞き込みにより分布が確認されたアマゴの2種を加えると合計24種の淡水魚類の生息が確認された（表1）。

これまでの香東川の報告によると、1970年代の調査（須永ほか、1972；植松ほか、1975；川田ほか、1975）で25種、1980年代の調査（須永ほか、1985、1989）で20種の淡水魚の分布が確認されている。

一方財田川の報告では、1970年代の調査（植松ほか、1972、1975、1979；川田ほか、1975）で16種、1980年代の調査（植松、1983；植松ほか、1984；須永ほか、1984、1989）で26種の淡水魚の分布が確認されている。

今回の調査で新しく分布が確認された魚種は、香東川ではニゴイ、カマツカの2種であり財田川ではコイ1種である。香東川では、香川用水導水後ニゴイ、カマツカの2種が吉野川水系から移入している。一方財田川でも、ニゴイ、カマツカ、ギギの3種が1984年の調査で吉野川水系から移入し今回の調査でも分布が確認され確実に定着している。また、香東川ではブルーギル、オオクチバスの2種のように1980年代に別途移入された外来魚も今回の調査で分布が確認され確実に定着している。

各河川における採集地点別魚類採集個体数の結果は表2に示したが、以下に河川別に述べてみよう。香東川では、ウナギ、ニゴイが最下流のK1で、カムルチーがK2で、カマツカは本流の下流域であるK1、K8で分布が確認され

た。ブルーギル、ヤリタナゴは中下流域のK3で、ムギツクはK4で採集された。ギンブナは本流の中下流域（K1～K3）に広く分布している。オイカワは、本流の中下流域（K1～K15）と内場ダムバックウォーター（K6）で分布が確認され、本流の上流域や支流では分布が確認されなかった。カワムツは、本流の下流から上流（K2～K8、K9～K15）、支流（K19、K10～K11、K12、K16～K17、K20）まで広く分布し、かつ採集個体数も多く香東川全体で優占している種である。カワヨシノボリも同じく本流の中上流域（K8、K9～K15）と支流（K19、K10、K11、K13、K12、K16～K17、K18～K20）に広く分布している。タカハヤは、本流の上流域（K5～K15）とすべての支流のすべての採集地点（K19、K10～K11、K13、K6～K14、K7、K16～K18、K20）で分布が確認されている。ホトケドジョウは、支流の上流域であるK13、K7、K18で採集された。

一方、財田川では、最下流のS1で来遊魚のボラ、メナダ、マハゼが採集された。下流域では、コイ（S2、S4）、メダカ（S2）、タイリクバラタナゴ（S2、S13）の分布が確認された。本流の中下流域でカマツカ（S3～S7）、ギギ（S5～S6）が分布している。本流の中下流域と支流河内川、神田川（S2～S6、S14、S17～S18）でギンブナが、本流の中下流域と支流河内川、宮川（S3～S5、S13、S14）でタモロコが、本流の中下流域と支流宮川、河内川、神田川（S2～S9、S13、S14、S17）でオイカワが採集された。本流の中流と支流（S7～S8、S13、S14～S15、S17～S18、S19）でドンコが採集された。宮川と神田川の支流だけ（S13、S18）でモツゴが採集された。本流の中上流域（S7～S9）と支流の上流部（S14、S16、S19、S20、S22）にカワヨシノボリが分布している。カワムツは本流の下流から上流（S2、S5～S9、S11）、支流（S14～S16、S19、S20、S21）まで広く分布し採集個体数も多く優占種である。ヨシノボリも本流の下流から上流（S2、S4～S7、S10～S11）、支流（S13、S15、S17～S18、S20）まで広く分布している。上流域に生息する魚種はタ

カハヤ (S11), 支流の上流部のみ (S18, S21) のホトケドジョウである。

摘 要

財田川は, 1992年8月3日~5日にかけて, 香東川は, 8月10日~11日にかけて淡水魚類相の調査をおこなった。今回の調査において, 香東川から採集された魚類は, 21種であり, 観察により分布を確認された2種を加えると合計23種の淡水魚類の生息が確認された。一方財田川からは22種であり, 観察や聞き込みにより分布が確認された2種を加えると合計24種の淡水魚類の生息が確認された。

引用文献

香川県. 1991. 河川現況調書. 香川県.  
 川那部浩哉・水野信彦. 1989. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚. 山と溪谷社.  
 川田英則・須永哲雄・植松辰美. 1975. 香川県の淡水魚 10. タカハヤの分布と渓流域の補足調査. 香川大学教育学部研究報告 II 25 (2): 57-65.  
 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦. 1976. 原色日本淡水魚類図鑑. 保育社.  
 須永哲雄・植松辰美. 1984. 香川県西讃地域における淡水魚の分布. 香川県自然環境保全指

標策定調査研究報告書 (香川県 西讃地域) (香川県): 157-166.

—————・—————・川田英則. 1972. 香川県の淡水魚 2. 香東川・綾川. 香川大学教育学部研究報告 II (211): 1-9.  
 —————・—————・—————. 1989. 香川県における淡水魚研究の現状について. 香川生物. (15-16): 95-113.  
 —————・—————・大高裕幸・河内直人. 1985. 香川県中讃東部地域における淡水魚の分布. 香川県自然環境保全指標策定調査研究報告書 (香川県中讃東部地域) (香川県): 194-205.  
 植松辰美. 1983. 財田川 (香川県) で採集されたタイリクバラタナゴ. 香川生物 (11): 7-8.  
 —————・安芸昌彦. 1984. 香川県におけるバラタナゴ (別称ニッポンバラタナゴ) の分布. 香川生物 (12): 7-14.  
 —————・川田英則・須永哲雄. 1972. 香川県の淡水魚 3. 財田川, 金倉川および大東川. 香川大学教育学部研究報告 II (212): 1-12.  
 —————・—————・—————. 1975. 香川県の淡水魚 9. 雑録. 香川大学教育学部研究報告 II 25 (1): 21-29.  
 —————・須永哲雄・川田英則. 1979. 香川県の淡水魚. 動物と自然 9 (1): 11-17.